

中期経営計画

〈計画期間〉
2018年4月～
2021年3月

ネクストバリュー NEXT VALUE

～お客さま・地域との共通価値の創造～

目指す姿

未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造(CSV)[※]する銀行

※ CSV : Creating Shared Value

基本方針

- 地元への積極的な資金供給による地域経済の活性化
- 本業支援とコンサルティングを通じたお客さま本位の業務運営

● 基本戦略

営業力 強化戦略

法人営業
個人営業
地方創生
FinTech

課題解決や本業支援を通じたお取引先の企業価値向上
お客さま本位の業務運営と効率的なリテール営業の実践
地域の活力を創造する地方創生の推進
外部連携の強化やデジタルイノベーション技術の活用により顧客利便性を向上

生産性 向上戦略

業務効率化
店舗再整備
働き方改革

従来の「やり方」や前例踏襲の「考え方」から脱却して生産性を向上
マーケットや環境変化を踏まえたチャネル最適化と経営資源の再配分
限られた時間の中で成果をあげる創意工夫、働きやすく、働きがいのある職場へ

経営力 強化戦略

市場運用
コンプライアンス
リスク管理
ガバナンス

総合損益を重視し、柔軟にポジションをコントロール
強固なコンプライアンス態勢の維持・向上
リスク管理体制の高度化
企業価値の向上へ向けたガバナンス体制の充実・強化

● 計数目標

	2020年度
中小企業向け貸出金残高	2,350億円
投資信託残高	435億円
非金利収益比率 [※]	12.6%
当期純利益	10億円

※非金利収益比率＝役務取引等利益÷(業務粗利益－国債等債券関係損益)

● ごあいさつ

平素より私ども鳥取銀行に対しまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。当行では、平成30年4月より、中期経営計画「NEXT VALUE」をスタートいたしました。

金融市場では、欧米の中央銀行が景気回復を背景に政策金利を引き上げる中、日本銀行では、物価目標の達成に向けて金融緩和の継続を示しており、今後も低金利環境は続くものとみられています。

地元経済を見ますと、雇用情勢の改善や生産活動の持ち直しから緩やかな回復基調が続いたものの、小売店販売など個人消費の一部に回復感が乏しく、投資にも足踏みが見られる状況となっています。そのような中、好調なインバウンド需要を背景に、各地で観光DMOの設立による地域間連携を強化する動きがあるほか、大山開山1300年祭などの大きなイベントが開催されることから、観光振興による地域経済の活性化が期待されています。

こうした環境の下、当行は、マイナス金利の継続による利ザヤ縮小や人口減少といった経営課題に対処すべく、従来の延長線上の「やり方」や、前例踏襲の「考え方」を排除し、「営業力強化」と「生産性向上」の両立により『収益力の強化』を図るとともに、『顧客本位』のビジネスモデルを実践することにより、『未来への変革に挑み、お客さま・地域との共通価値を創造する銀行』を目指してまいります。



取締役頭取
平井 耕司

本計画では、目指す姿を実現すべく、2つの基本方針を掲げております。一つめは、「地元への積極的な資金供給による地域経済の活性化」です。地域に果たすべき当行の重要な役割・責任の一つが「資金供給」であることを再び強く認識し、幅広く途切れのない資金供給に努めてまいります。二つめは「本業支援とコンサルティングを通じたお客さま本位の業務運営」です。お客さまとの対話を重視し、企業価値向上や安定的な資産形成に資する提案・サービスを提供することで、お客さまのニーズに積極的にお応えしてまいります。

今後とも皆さまの信頼とご期待にお応えできるよう全役職員が一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月